

## 議員研修会が開催されました(H28. 9. 12)

9月12日、龍谷大学政策学部の教授である土山希美枝(つちやま きみえ)氏を講師にお招きして、「質問力を高める 議会力に活かす」というテーマで、議員研修会を実施しました。

この研修会は、議会議論の質の向上や、政策立案機能の充実・強化に向けた取組として行っているものです。

土山教授からは、他の議会などの具体的な事例などを交えながら、議員に対し、理解しやすく説得力のある質問や一般質問の機能を活かすための手法などとして、次の点などをお話いただきました。

## 【一般質問が持つ機能】

一般質問とは、道政に争点を提起することを通じて、監査機能や政策提案機能を果たすことができるという機会です。監査機能とは、道政の運営や事業の執行について、その状況や効果などを検証して評価し、執行機関がなすべきことを適切になされるかどうかをチェックする機能です。政策提案機能とは、政策やその具体化である施策や事業のあり方について、新規だけでなく、改善や廃止も含めて提起する機能です。

## 【一般質問の現状と課題】

残念な質問、もったいない質問として、公表数字を確認するだけの質問、合理的な根拠や論点のない質問、国の政策や事業で道が関知できない事柄の質問、議員自身の政治信条の演説に終始した質問などがあります。

## 【良い一般質問を行うためには】

良い一般質問を行うためには、論点の具体化や整理が必要です。論点は、事実と分析と主張によって構成されており、その流れをできるだけスムーズにすることができれば、説得力のあるものになります。

また、情報収集については、現場で聴く力を発揮することや、政策に関する情報をデータで裏付けすることが重要です。

## 【良い一般質問とは】

良い一般質問とは、道を良くするための争点提起になっているもの、監査機能や政策提案機能を果たしているもの、何が問題なのかが明確で、その論点に対して納得が得られるもの、問題を問題だといえる必要な情報が入っているもの、政策提案が具体的なもの、道の状態を反映しているもの、聞いて分かりやすい、伝わりやすいもの、議論を通じて、納得を引き出すことができているものなどです。

講義後には、質問用紙を用い、講師との質疑応答のやりとりがあり、各議員が、普段、工夫している一般質問の手法や、日頃抱えている悩みなどについて共有することもでき、大変有意義なものでした。

